

令和3年度第5回 福島県原子力発電所の 廃炉に関する安全監視協議会

2021年11月18日
東京電力ホールディングス株式会社

(1) 廃止措置の進捗状況

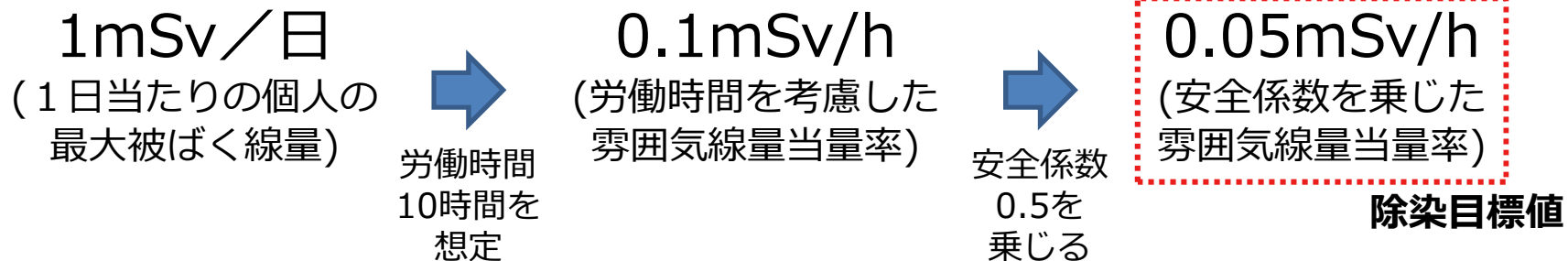
- **汚染の除去作業**
- **放射化汚染，二次的汚染の調査・評価方法**

- 7月6日から9月1日にかけて、解体工事準備期間（第1段階）の着手として、制御棒駆動機構（以下「CRD」という。）補修室※1内の設備・機器を対象に、汚染の除去作業を行いました
- 今回の汚染の除去作業は、放射性物質の漏えい及び拡散防止対策等の必要な安全確保対策を講じた上で、機械的方法（高圧水を使用する噴射法）により実施しました
- 汚染の除去作業で発生した放射性物質を含む廃液は、液体廃棄物処理系にて適切に処理します



汚染の除去作業状況（3号機 制御棒駆動機構補修室）

＜除染目標値の考え方＞



＜汚染の除去作業前後の雰囲気・表面線量率＞

単位：mSv/h

	室内雰囲気線量率（最大）		機器表面線量率（最大）		除染目標値
	作業前※	作業後※	作業前※	作業後※	
1号機	0.06	0.04	1.9	0.35	≤0.05
2号機	0.15	0.07	35	12	
3号機	0.02	0.02	0.35	0.20	
4号機	0.05	0.03	0.80	0.10	

※：作業直前・直後の測定値（小数点第3位切上げ）

- 放射化汚染，二次的な汚染の調査と評価は，「原子炉本体周辺設備等解体撤去期間」以降における管理区域内の設備等の解体撤去計画を策定するために実施しております
- 放射化汚染及び二次的な汚染の評価は，計算による方法，測定による方法，又はこれらを組合わせて実施します
- 放射化汚染の評価については，主に炉心部，原子炉周辺等を調査します。計算による方法としては運転履歴や設計情報等を基に計算コードを用いて評価します。計算により得られた放射化生成核種及び放射化放射エネルギーと採取した代表試料の分析結果を比較して格納容器内全体の放射化の程度を把握します

- 二次的な汚染は，冷却材中の放射性物質等が機器・配管等に付着したもののや建屋の床，壁に浸透した汚染を評価します。計算による方法としては，冷却材中の放射能濃度や設計情報等を基に解析により二次的な汚染分布を推定します。測定による方法としてはガンマスキャン等による測定や採取した代表試料の分析により評価します
- 現在は机上調査として設計情報や過去の記録を収集するとともに，今後の汚染状況の調査計画を検討しています

(2) 廃止措置の今後の予定

- **廃止措置作業の主要工程**

- 現在作成中の廃止措置作業の主要工程は、第一段階の廃止措置計画の作業全般を範囲としています
- 事前了解を頂いた廃止措置計画に記載されていない「乾式貯蔵設備」に関する作業は範囲に入っておりません
- 主な項目は、「汚染状況の調査」、「核燃料物質による汚染の除去」、「管理区域外設備の解体撤去」、「原子炉建屋内核燃料物質貯蔵設備からの核燃料物質の搬出（核燃料物質の譲渡し）」、「放射性廃棄物（運転中に発生した放射性廃棄物及び廃止措置期間中に発生する放射性廃棄物）の処理処分」などになります
- 廃止措置作業の主要工程は2022年3月末頃の完成を目標に作業を進めております